



山と人との調和をモチーフに
デザイン開発。
基本カラーはエコグリーン。
デザインは木原実行さん。

第9回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

【日時】 2010年6月5日(土)・6日(日)

【場所】 ●北広島町：八幡高原
●東広島市：憩いの森公園
●廿日市市：もみのき森林公園
●広島市：広島市森林公園
●広島市：広島県緑化センター
●三原市：中央森林公園
●庄原市：板橋さとやま学びの森
●福山市：ふくやまふれ愛ランド
●三次市：清高の丘
●呉市：グリーンヒル郷原

【主催】 ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
中国新聞社
中国放送



第9回 ひろしま「山の日」 県民の集いの記録

2010年6月5日(土)・6日(日)開催



「緑の募金」助成事業

セブン-イレブンみどりの基金
一般財団法人セブン-イレブン記念財団

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会 / 中国新聞社 / 中国放送

第9回ひろしま「山の日」県民の集い

「山の日」宣言

広島県の面積のおよそ70%は山です。
全国に誇る里山を有しています。

山から湧き出る水は命の源であり、
その水が里の稲や野菜を育てています。
山を被う緑の木や草は、新鮮な空気をつくりだしています。

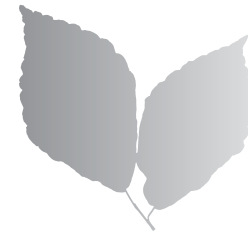
広島の豊かな山で生まれた水は
豊かな川となり瀬戸内海や日本海へ注ぎ、
魚や貝を育てています。

私たちは、6月の第一日曜日を「山の日」とし
「山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ」をテーマに、
第9回ひろしま「山の日」県民の集いを、
ここ北広島町八幡高原をメイン会場に、
広島県内10ヶ所の会場で開催します。

今日の事をきっかけに、
ひろしまの里山から、
山の大切さを理解し行動する人の輪を上げ、
山がよくなる運動にしていくことを
宣言します。

2010年6月6日

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
実行委員長 林春樹



目次 INDEX

| | |
|------------------------------|----|
| ■ 事業のアウトライン | 1 |
| ■ 各会場の記録 | 2 |
| (1) 北広島町メイン会場 八幡高原 | 2 |
| (2) 東広島市サテライト会場 憩いの森公園 | 6 |
| (3) 廿日市市サテライト会場 もみのき森林公園 | 10 |
| (4) 広島市サテライト会場 広島市森林公園 | 13 |
| (5) 広島市サテライト会場 広島県緑化センター | 16 |
| (6) 三原市サテライト会場 中央森林公園 | 17 |
| (7) 庄原市サテライト会場 板橋さとやま学びの森 | 21 |
| (8) 福山市サテライト会場 ふくやまふれ愛ランド | 22 |
| (9) 三次市サテライト会場 清高の丘 | 25 |
| (10) 呉市サテライト会場 グリーンヒル郷原 | 26 |
| ■ 実行委員・協力者・団体等 | 27 |

事業のアウトライン

| | |
|----------|--|
| 1.目的 | 山をよくしていく運動のきっかけづくりを目的に、「山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ」をテーマとしたひろしま「山の日」県民の集いを開催する。 |
| 2.日時 | 平成22年6月5日(土)・6日(日) 北広島町会場は5日・6日の両日、他は6日に開催 |
| 3.会場 | <ul style="list-style-type: none"> ●メイン会場 北広島町会場:八幡高原(山県郡北広島町東八幡) ●サテライト会場 東広島市会場:憩いの森公園(東広島市西条町) 廿日市市会場:もみのき森林公園(廿日市市吉和) 広島市会場:広島市森林公園(広島市東区福田) 広島市会場:広島県緑化センター(広島市東区福田) 三原市会場:中央森林公園(三原市本郷町) 庄原市会場:板橋さとやま学びの森(庄原市板橋町) 福山市会場:ふくやまふれ愛ランド(福山市赤坂町) 三次市会場:清高の丘(三次市東酒屋町) 呉市会場:グリーンヒル郷原(呉市郷原) |
| 4.参加総数 | 8,608人(山の手入れ・植樹参加者 1,161人) |
| 5.主催 | ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送 |
| 6.後援 | 林野庁、広島県、広島県教育委員会、広島市、呉市、福山市、三原市、三次市、庄原市、東広島市、廿日市市、北広島町、(社)国土緑化推進機構、(社)広島県みどり推進機構、(社)広島県森林協会、ひろしま緑づくりインフォメーションセンター、広島県山岳連盟、(社)日本山岳会広島支部、NHK広島放送局、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送 |
| 7.協賛 | (株)タカキベーカーリー、西条・山と水の環境機構、ちゅうごく環境ネット、(株)ウッドワン、(株)エディオン、神沢精工(株)、山陽乳業(株)、JAグループ広島、大和重工(株)、中国電力(株)、中国木材(株)、(株)中電工、広島県協同組合連絡協議会、マツダ(株)、呉糧配協同組合、(社)広島県造園建設業協会、東広島商工会議所、広島市漁業協同組合、広電建設(株)、広島商工会議所、(株)広島バスセンター、みずえ緑地(株)、(株)有斐園、ゆあーず「食」未来研究所 |
| 8.助成 | 「緑の募金」助成(社団法人広島県みどり推進機構) セブンイレブンみどりの基金(一般財団法人セブンイレブン記念財団) 北広島町会場、東広島市会場、庄原市会場、福山市会場、三次市会場、呉市会場は「ひろしまの森づくり県民税」を活用して開催 |
| 9.ロゴ使用申請 | 国際生物多様性年ロゴ(事務局:カナダ・モントリオール) RCCラブ・グリーンロゴ(中国放送) |



北広島町メイン会場 八幡高原

全体 ■参加人数：550人
[プログラム状況]

会場の北広島町八幡高原では、「命の環つなげる」をテーマに、全国的にも価値の高い八幡湿原自然再生事業が始まっています。また、北広島町では「生物多様性きたひろ戦略」の策定など、積極的に生態を保全する活動に取り組んでいます。北広島町メイン会場は、国際生物多様性年にふさわしい第9回ひろしま「山の日」県民の集いとなりました。

地元の保育園・小学生も17人が全員参加。
感動の輪がひろがったオープニングセレモニー。

この日の八幡高原は、新緑に包まれ爽やかな青空がひろがりました。オープニングセレモニーには、県内や県外のグループや家族連れをはじめ広島大学の留学生など300人が参加。地元からは八幡小学校の全児童(9人)、八幡こども園全園児(8人)も参加しました。

自然が大好きで八幡高原もよく歩くという林春樹実行委員長の実感のこもったあいさつにより、第9回ひろしま「山の日」県民の集いの行事が始まりました。北広島町の竹下正彦町長も北広島町は広島県内の市町に先がけ条例を制定するなど生物多様性の保全に取り組んでいることなどを紹介し、歓迎の挨拶。来賓紹介のあと、広島県緑化功労者表彰式、「緑の募金」高額寄付者への感謝状贈呈式が行なわれました。

- 平成22年度広島県緑化功労者表彰式
受賞：カキツバタの里づくり実行委員会
- 「みどりの募金」高額寄付者への感謝状贈呈式
受賞：株式会社フレスタ

八幡小学校の中村穂乃花さんのひろしま「山の日」宣言も感動的でした。また、「故郷広島山」は、八幡小学校全児童がステージに上がり、ステージも会場も一体になった大合唱となりました。セレモニーの締めくくりは、ひろしま人と樹の会の畝本さんの当日のアイデアと行動力により、広島大学の留学生などによる国際生物多様性年にふさわしい安全祈願となりました。

女性や家族連れの参加が増えた
北広島町八幡高原会場の山の日でした。

2日間に渡って、各団体が企画した9つのプログラムが行なわれました。総参加者は、550人。

参加したグループ・企業は、33団体でした。高原の新緑も美しく、カキツバタがちょうど見ごろであったことでもあるのでしょうか、女性や家族づれの姿が目立ちました。少しずつ「山の日」の輪が広がっているように思います。



記録者：畠崎辰登(ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会事務局)



▲開会式の様子



▲元気な声で、ひろしま「山の日」宣言



▲海外からの留学生による安全祈願



▲「故郷広島山」の大合唱



▲受賞のカキツバタの里づくりの実行委員長

登山道整備

■参加人数：45人
[プログラム状況]

6月5日(土)9:10~15:00の間、日本山岳会は聖山周辺の登山道整備をおこないました。参加者は経験者が多く草刈り機など作業用具を準備して集まり手際よく作業を進めました。定刻には予定区間の全てを終了。まず齋総隊長の説明を受けて2隊に分かれました。ひとつは聖山隊で、十文字峠から聖山までの登山道と山頂周辺の草刈りに23人が当たりました。作業の結果、幅広い登山道が山頂につながるとともに広々とした山頂広場が生まれ、そこからクマザサ刈りをしたことでさらに大岩へと足を伸ばすことができるようになりました。

昭和40年ごろ山頂からは聖湖(当時は樽床ダムと呼んでいた)がきれいに見下ろせたが時代の変化とともに草山保全から森林へと自然も姿を変えたため往時の再現はできません。しかし豊かな自然を満喫できる登山道が完成。もうひとつは聖山~高岳登山道隊でアップダウンの長い区間を22人が担当しました。聖山山頂分かれから高岳に向かう組といったん高岳に登り高岳分岐から逆に聖山山頂分かれへ進む組が13:56対面し道がつながりました。参加者の一人は「草刈り機の音が聞こえ出しやがて姿も。感激した」と語りました。このあと出来たばかりの道を聖山から高岳に参加者二人が歩き初めをしました。



▲登山道整備、出発式



▲作業を終えて、山頂で

記録者：国枝忠幹(日本山岳会広島支部)

山の日トーク、前夜祭

■参加人数：約70人
[プログラム状況]

6月5日18:00~20:00の間、八幡高原センターで山の日トークと前夜祭がおこなわれました。山の日トークは第1回から学識経験者として参画されている中越信和氏(広島大学大学院教授・森林生態学)による「里山イニシアティブの核心—山好きな方への情報提供」。山の日や生物多様性について映像をもとに熱く語りかけられました。引き続いての前夜祭は屋外でのキャンプファイヤーこそないがグループを越えての交流がなされて好評でした。

2日間を通じて参加者の中で親睦がはかれる唯一の機会となりました。近藤紘史副実行委員長による乾杯の音頭で会場は一気に盛り上がり、広島銘酒などがお互いのコップに注がれ、アンデルセンや広島県山岳連盟、日本山岳会広島支部、地元の八幡振興会等からの持ち寄り料理に舌鼓を打ちました。日本山岳会岐阜支部や北九州支部のからの会員も訪れていて宴たけなわの場面では自慢の民謡なども披露されました。



▲交流の輪が広がる前夜祭



▲各グループ自慢の料理を持ち寄り

記録者：国枝忠幹(日本山岳会広島支部)

山の手入れ

■参加人数：160人
[プログラム状況]

6月6日、10:30~15:00の間、メイン会場そばの雑木林で山のグラウンドワークがおこなわれました。ここは、当日おこなわれた霧ヶ谷湿原観察会や、カキツバタ祭りに訪れる見物客の交通の要所と言える場所。そばには芸北高原の自然館や山焼きで有名な千町原もあります。八幡高原の代表的スポットと言っていい場所の一角が地面まで光の入らないまま放置状態の林でした。そこを160人が15班に分かれて下草刈りや除伐に汗を流しました。そのあとは光が入りこみ林の奥まで見通せるすっきりとした景観が生まれました。作業に当たり「ササ・キイチゴ・ツル・コシダ・枯れ木は整理する。直径15センチ以上の木は切る、15センチ以下でもモミジ・コブシ・ナツツバキは残す。根元から伸びている樹木は2~3本減らすこと」が徹底されました。



▲15班の班編成



▲整備の仕方をわかりやすく説明



▲手ノコの使い方を習う参加者



▲各班に分かれて手入れをする



▲山の手入れをする参加者

記録者：国枝忠幹(日本山岳会広島支部)

霧ヶ谷湿原観察会

■参加人数：40人

[プログラム状況]

自然再生事業が進められ4月にオープンした霧ヶ谷湿原の観察会は、午前中15人、午後25人が参加しました。午前中のコースは、ハンノキ林で湿原の雰囲気を感じていただき、霧ヶ谷湿原で自然再生事業地を見ていただきました。午後からは広大な留学生も多く含まれており、中越先生が応援下さいました。木道では列が長くなるので、先生の説明を後方へ伝達する形で観察会を進めました。

再生事業の経過や目的、湿原性の植物、またきめ細かな観察の下で今後への期待など、湿原を取り巻く環境の話に、参加者は興味深く耳を傾けていました。霧ヶ谷湿原は今、再生事業後初めての四季が巡っています。今の状態を確認しておくことで、今後の変遷がますます楽しみなものになることでしょう。



▲自然再生事業について説明を聞く



▲小川も再生された



家族連れや留学生も参加した▶

記録者：近藤紘史(芸北トレッキングガイドの会)

初心者のための登山教室

■参加人数：39人

[プログラム状況]

初心者の為の登山講座は、各隊に講師・スタッフ2人で、初級登山講座16人と里山ハイキング23人(2隊)の2講座を3隊で実施しました。

オープニングセレモニー終了後、受付テント前に集まった隊から順次出発。牧野富太郎博士の石碑前で説明・ストレッチ後、昨日山岳連盟が整備した快適な登山道を、千町原から臥龍山を目指しました。新緑でオゾン一杯の原生林の中、高山植物やカッコウ・鶯の鳴き声に心を癒されながら、一汗かいて雪霊水へ。ここは去年の事件現場で看板が設置され、花がたむけられており心が痛みます。冷たい雪霊水で喉を潤し、里山ハイキング隊はここで昼食・ワンポイントレッスンを行ない、ブナの原生林に囲まれた臥龍山山頂で記念撮影し、猿木峠で休憩後、霧ヶ谷湿原に下山、湿原の遊歩道を通って千町原の丘を経由して、閉会式の5分前にメイン会場に戻って解散しました。

受講者の皆さんは、一部草原のハイキングと思った方もいましたが、新緑の原生林を登り、広島近郊とは違う楽しみに、大いに満足されたようでした。



▲臥龍山をめざして



▲臥龍山山頂

記録者：野島信隆(日本山岳会広島支部)

森のネイチャーゲーム

■参加人数：23人

[プログラム状況]

当日受付とし、時間を決め開始。午前10時30分開始1回、午後13時30分開始1回の2回行いました。

午前・午後を通し参加していただいた1家族と午後飛び込みで参加していただいた家族で、身近な自然として取り組みました。ゲーム内容は、「カモフラージュ」、「目かくしいもむし」、「大地の窓」、「フィールドビンゴ樹木編」、「木の鼓動」など。小さな子どもがいたため、無理をせず家族で楽し

めるよう配慮しました。

また、大地の窓では、牧草地において草刈が行われ乾燥されていたため、本来は落ち葉で行うところを刈り取られた牧草で、体を埋め、顔だけ出してしばらくゆっくりと大地とひとつとなってもらいました。

木の鼓動では、樹液の流れは聞こえないが、想像してもらいながら、木の不思議や木から聞こえる音など、聞いてもらい、木は周りの音を聞いて、年輪となり刻まれているなど、時の流れを大切に刻み育っていることを説明しながら木の不思議について取り組みました。その後、フィールドビンゴ樹木編を行い、カードに書かれた内容を探してもらいながら、木にもいろいろタイプがあることなど、音、触った感覚、葉っぱなどの大きさ、臭いなど、体全体で探してもらい、子ども達には自然の不思議と発見を探してもらいました。



▲木の鼓動を聞く



▲「フィールドビンゴ樹木編」、葉っぱの匂いをかく



◀目かくしいもむし

記録者：秋山浩三(広島県ネイチャーゲーム協会)

ヤマネの棲む森と湿原の観察会

■参加人数：16人

[プログラム状況]

今回参加者は初参加者ばかりでした。

自然と接する時のルール、マナー、本日子想される危険(現場では遭遇した危険と対処法をその都度説明)行動予定、尾崎沼湿原とその周辺の概略説明の後出発しました。

参加者は配布資料の植物リストを手に植物民俗学的解説を聞きながら鳥の鳴き声、コゲラの穿孔跡の説明を聞き観察しつつ歩きました。5年前の積雪時に広島市内の小学生たちが設置したヤマネの巣箱内のヤマネ、ネズミ等の営巣状況の観察と解説を聞きました。

巣箱のひとつにシジュウガラが営巣していたので早々に退散、ブナの巨木のある神社へ移動、ヒメザゼンソウの開花など貴重な観察もできました。



▲落下していた巣箱を再設置する参加者親子



▲ヒメザゼンソウの開花

記録者：川崎海山(芸北自然保護レンジャー)

展示・PRコーナー

■参加人数：多数

[プログラム状況]

芝生の広場には、「太田川森林組合、森の工作物等PR展示」「マツダのエコカーの展示」「かまどん・ダッチオープン」の展示」「手のこの展示」「山の日のポスターパネルの展示」も行なわれました。



▲森の工作物



▲マツダのエコカーの展示は、古民家の前に



▲ダッチオープン等の展示



▲兵庫県三木市の「手ノコ」の展示

東広島市サテライト会場 憩いの森公園

全体

■参加人数：410人

[プログラム状況]

東広島会場は前回と比べ様々な変化があり、実行委員長以下主要役員が入り替わりしました。それぞれが初めての大任に正面から取り組んでいただいたことに感謝します。事務局スタッフも広島大学・大学院生の自然環境研究グループ「かっぱのおうち」が初参加してくれたことにより、たくさんの参加者をスムーズに受け入れることができました。メインプログラムである山のグラウンドワークも、テーマに「里山の恵み」の地域での活かし方を体感するきっかけづくり」とし、山の手入れに加え、除伐材を地域内で循環させ、有効利用する取り組み、実例を実演と展示を交えて行いました。

午前の作業で疲れた参加者を前に講義をする佐藤運営委員長(広島大学准教授)はご苦労されたと思いますが、木質チップやペレットに興味をもってもらえたようで、意義のある試みでした。初めてのことばかり、各担当者や進行役の私も後でこれを言えば良かった、ああすれば良かったと反省ばかりでしたが、まずは第一歩を踏み出したという事でしょう。山の手入れに参加するお父さんたちについて来たお子さん、お母さんたちは、野鳥観察やネイチャーゲーム、それに丸太切りをみどりの少年団の小学生ともども楽しんでいただけたようです。その声と笑顔は印象的で、昨年よりグレードアップされた丸太コースターは子どもに大人気でした。最後に、事務局長として一番良かったのは、スタッフの充実した顔ときれいになった里山を見た時でした。ありがとうございました。

ある参加者からの感想。<疲れきった大人たちとは違い、子どもたちは丸太切りや切った丸太の色付けなど、疲れも知らずに楽しんでいたのがとても印象的でした。そして、彼らのためにも「美しい日本と持続可能な世界を残していくことが今の大人たちの責任なんだな。」とあらためて感じました。>



▲参加者たち



▲開会の挨拶をする島実行委員長

▼開会式の様子



記録者:船本昌義(実行委員会 事務局長)

山のグラウンドワーク

■参加人数：約250人

[プログラム状況]

前日までの参加予定数245人、それが大学生のドタキャンや申込FAXが届かなかったグループ、当日参加などがあり集計してみると班長などのスタッフを含め約250人となり、グラウンドワーク史上最大級の参加者が午前中、山の手入れに参加しました。山の手入れ初体験の参加者が50人位いましたが、賀茂地方森林組合や東広島市酒米栽培推進協議会、JA広島中央の農業従事者、西条酒造協会等のいつも指導者を務めるメンバーがサポートして、暗い森のように繁茂した木々を除去していき、明るい林にどんどん変えていきました。

下草刈りもさることながら、結構高く成長した樹木も切り倒し、初参加者も学生もみなさんお疲れでしたが、後ろを振り返ると西条の町並みが一望でき、少しは疲れも取れたのではないのでしょうか。作業を終え、お昼の炊き出しが始まると長蛇の列ができ、みなさん野外での食事をおいしくいただいたようです。午後の部の参加者が予想より減ったのは、かなりの部分で午前の作業を頑張りすぎたせいで疲れきったからのようです。2トントラックで運び出された除伐材は10台分くらいになったのも当然の結果です。この除伐材は全てチップや炭などにして有効活用します。



▲山のグラウンドワークの様子



▲除伐をする参加者



▲作業を終えての集合写真

記録者:船本昌義(実行委員会 事務局長)

炭の窯だし

■参加人数：約70人

[プログラム状況]

5月に焼いた炭をみどりの少年団4年生の手を借りて、窯から取り出し計量しました。138.5kgの原木から37.8kgの炭ができました。歩留まりは27.3%と平均より高くなりました。少年団の子どもたちは、炭についての話を聞いたあと、炭で制服が汚れないようにカップを着込んで汗だくになりながら火バサミを使い炭を壊さないように慎重に取り出しました。



▲緑の少年団の4年生が参加



▲窯を開けたところ



▲窯から炭を取り出す

記録者:国枝忠幹(日本山岳会広島支部)

木質バイオマスの利活用

■参加人数：多数

[プログラム状況]

前回のグラウンドワークで出たチップを最終的に栗尾衛生社で乾燥し今回のペレット製造に用いました。昼休みと講義の合間の実演で40kg程度のペレットを製造。学生たちの感想では、自分たちの作業で出てくるような木質バイオマスが、ペレットという燃料になることを話だけではなく実際に見ることが出来て、エネルギーの地産地消を身近に感じてもらったようでした。



▲前回切り出した除伐材をペレットに

記録者:佐藤高晴(広島大学総合科学研究科木質バイオマスプロジェクト)

森のネイチャーゲーム

■参加人数：39人

[プログラム状況]

初夏の一日、みどりの少年団、一般家族4組参加で、「わらしべウォーク」「カモフラージュ」「フィールド・ビンゴ」のゲームをしました。「わらしべウォーク」は、各人がみつけた自然のお宝を次々にとりかえるゲームで、わらしべ(木ぎれ)が、木の根、花、実、蜘蛛などに変遷し、自然のかけがえのなさを体感しました。「カモフラージュ」は生き物の擬態を学び、自然に紛れた物を探すゲームで、森の観察眼を養いました。自然を見る目が研ぎ澄まされたからでしょうか、とぐるを巻いたマムシを発見という貴重な体験もできました。ネイチャーゲームの醍醐味は、「いま」「この場所」の自然の姿と参加者が馴染みあう瞬間にあることを実感しました。



▲オオキンケイギクの観察



▲カモフラージュ

記録者:山田真紀子(広島県ネイチャーゲーム協会)

森の野鳥観察会

■参加人数：34人

[プログラム状況]

野鳥観察会は午前と午後の2回行いました。午前の部は「みどりの少年団」の6年生の班が10時に、家族連れを含む一般の班が30分遅れで出発。それぞれ同じコースで1キロ余の林道を散策、探鳥しながら花や実を付けた草木や、蝶やトンボなどの昆虫も観察しました。

午後の部は1時に出発、同じコースを歩いたが、普通は声を聞くだけで、めったに姿を見る事の出来ないホトギスを観察でき、参加者一同大感激でした。

山の中は美しい鳴き声のキビタキを初めウグイス、メジロ、ヒヨドリ、シジュウカラ、カワラヒワ、キジなどの鳴き声にあふれていて、姿を見る事が出来ない野鳥もいたが満足した一日となりました。



▲みどりの少年団は3~4人の小班に分かれて観察



▲一般参加者は家族連れが多かった



▲真新しいアカゲラの巣に皆感動



ホトギス(遠景)▶

記録者:新名俊夫(東広島の野鳥と自然に親しむ会)

ペレットストーブの実演・展示 ボイラー・ハウス加温機のパネル展示

■参加人数：多数

[プログラム状況]

この度も東広島市会場に参加させていただきました。初めての多目的広場でしたが、ステージもあり、イベント感が味わえました。年々、参加者も増え、今回は延べ人数410人との報告もあり、これも実行委員の皆様の努力の賜物と思います。

我がブースでは、毎度ですがペレットストーブとBBQグリル『きりん君』の実演と各器機のパネル展示を行いました。ピザの試食には、大人も子供もお構いなしに群がってもらいペレットBBQグリルの宣伝になったのではないかと思います。

また、最後にはペレットストーブの説明もさせていただき充実した一日だったと思えました。

午後の部の講義では、山の伐採に参加された皆様はお疲れの模様でしたが、参加者、運営者、出展者全員気持ちのいい汗をかくことが出来たのではないかと思います。

来年からはそれぞれがメイン会場となるようなので、更に充実した山の日にすることが出来れば良いと思います。ありがとうございました。



▲「きりん君」は子どもたちにも人気



▲ペレットストーブでピザを焼く

記録者:山野井重典(ヤマノイ株式会社)

エコプランター&竹チップ堆肥の紹介

■参加人数：多数

[プログラム状況]

《チップー機の実演》

このクラス(GS121GN)は、竹の破碎に適していることから、竹材(12cm)にて実演をし、処理能力および特長を紹介しました。小型にしては、処理能力が高いことにビックリされていました。

年々、チップー機に対する認識も高まってきており、見学者からは刃の耐久性や価格等実務など質問がありました。《チップの有効利用の紹介》

木・竹チップについて、東広島市および北広島町の利用事例紹介。テント内では、実演を含め次のことを実施しました。

(1)竹チップ堆肥の展示・販売

牛フンと混合したものを展示。竹をチップにした具体例として関心を持って見ていただきました。サンプル提供にも多数の方からの希望がありました。価格に対する反応を見るため、20円/Lで提示したところ「安い」の声がありました。

(2)エコプランター&ミニガーデンユニットの展示・販売

竹炭使用による“水やり省略”に、なぜ水が省略か?腐らないのか?といった素朴な質問が子どもたちからあり、環境への関心も高まってきていると感じました。カラーチップに人気がありました。

(3)ウッドチップのバインド工法実演

チップを樹脂液と混合し、チップ舗装やアイデアによる活用方法として、ミニガーデンユニットへの使用。植木鉢、レンガ等実際に実演で作りました。「はじめて見た…」の見学者がほとんどで、チップの利用用途として反響がありました。

(4)販売実績/価格調査を主目的に参考に提示しましたが、直接的な実績はありませんでした。



▲エコプランター等を見学する



▲子どもたち見学にやってきた

記録者:藤川信也(フジ・エコテック)

丸太切り体験

■参加人数：約50人

[プログラム状況]

当日は、天気も良く絶好のイベント日和となりました。当組合では、「山のグラウンドワーク」の作業指導、山の手入れ道具の販売、間伐材を利用した丸太切り(杉)の体験コーナーを設けました。

特に、丸太切り体験においては親子での参加が多く、普段あまり使うことのない鋸を使い、親子一体となって悪戦苦闘しながら切り終えた達成感には、笑顔が満ちあふれていました。ほとんどの参加者が切り終えた杉を布やすりで擦り、コースター等として持ち帰られました。

家族の思い出作り、そして少しでも様々な世代の人々に



▲直径15センチの丸太切りに挑む



切った丸太は、磨いてコースターに

記録者:松浦尚樹(賀茂地方森林組合)

●運営へ参加して●

司会とグラウンドワークへの参加

私は8年前に学生として山のグラウンドワーク参加させて頂いたのですが、そのときには、自分が今年司会をすることになるとは思ってもおらず、とてもびっくりしましたが嬉しかったです。また、山のグラウンドワークにたくさんの若い人が参加されていたのを見て嬉しく思いました。そして、今回参加して下さった方の中から、私の様にずっと山に通ってくれる人が出てきてくれるといいなと思いました。

(記:小倉亜紗美)

▲司会をする小倉さん

事務局スタッフとして参加して

今回初めて事務局として参加させていただき、慣れないながらも日頃はできない経験をさせていただいたことに感謝しています。

当日は子どもから大人まで多くの方に参加していただき、楽しそうに取り組まれている姿を見ることができ大変嬉しく感じました。また、自分たちもこのイベントを通して山と親しむことができ、今後プライベートでも行ってみたいと思いました。

(記:福田栄二・広島大学かっぱのおうち)

廿日市市サテライト会場 もみのき森林公園

全体 ■参加人数：1,200人
[プログラム状況]

前日までの数日間の「夏日」と思わせるかのような、暑さの日々と打って変わって、初夏の風、爽やかなもみのき森林公園で第9回ひろしま「山の日」県民の集い廿日市市サテライト会場の催しが行われました。

定刻の10時、「山の日」県民の集いの横断幕が飾られたステージの前に集まった、各催しの参加者・スタッフを前に、サテライト会場副実行委員長大久保さん(阿品の森サポータークラブ会長)が「美味しい森の空気を胸いっぱい吸って、今日の「山の日」の色んな催しを楽しんでください」と開会の挨拶を述べ、この日の催しの一つ、もみのき湿原木道設置に参加する井上さん(阿品の森役員)が、「山の日」宣言を高らかに発したのに続き、同じ催しに参加する沖田さん(阿品の森役員)のリードで、安全宣言(どんぐりころころ)を開会式に参加した全員が唱え、この日のプログラムが開始されました。

「新緑のもみのき森林公園」の自然観察会に参加するグループは、自然観察指導員の資格を持つ平本さん(もみのき森林公園協会理事長)の案内に従ってメモ用紙やカメラを手に、森の中へ出かけて行きました。

木道設置に参加するグループは、「阿品の森サポータークラブ」の会員が主体で、ヘルメットの紐をきりとりしめ、チェーンソーや掛矢など道具一式をトラックに積み込んで、もみのき湿原へ行きました。

早朝から準備に余念のなかった、「親子でピザ作り体験」のコーナーのスタッフ、「森のクラフト教室」のスタッフは早速、開店し、今か今かと待っていたお客さんに、説明を始めました。

「森のネイチャーゲーム」のコーナーでは、開会式の前から活動が始まり、式が終わるや否やゲームに入りました。

この日、廿日市市サテライト会場では、特に子どもたちに「山の日」を楽しんでもらうために「魚のつかみ取り」や「無料の乗物コーナー」もあり、1,200人が「山の日」の様々な催しを楽しみ、県下の「山の日」に呼応した一日を過ごしました。



▲開会式の様子

記録者:江川和禎(広島県森林インストラクター連絡協議会)

もみのき湿原の保全と木道を設置しよう

■参加人数：20人
[プログラム状況]

湿原の木道設置に参加したグループは、大久保さん(阿品の森)のアドバイスを受けながらも、それぞれが2、3人から4、5人の「作業班」を自主的につくり、各「班」ごとにいろいろな形状や構造の木道・木橋づくりに勤めました。

この日、完成した木道・木橋は、計画した数を越えた10橋。天草5橋ならぬ「もみのき10橋」が、湿原の上流側に出現し、この日、偶然に訪れたご夫婦のお客さんが渡り初めし、「御苦労さま」と声をかけていました。



▲木道を設置



▲歩道の幅を決める

記録者:江川和禎(広島県森林インストラクター連絡協議会)



▲小さな子どもたちも参加できるように

野鳥の観察会

■参加人数：16人
[プログラム状況]

もみのき森林公園と吉和地域という環境の違いにより出現する野鳥の種類の違いを確認する。また、夕方、夜間、早朝と時間帯の違いによる生態の観察は1泊2日の行事ならではの成果と考えます。

珍しい種類を観察することも、感動であるが、身近な種類をよりじっくり観察することの大切さも学びました。

適時、植物の観察、星座の観察を加えることによって、より自然の仕組み、その偉大さ、深さを実感することが出来たようです。



▲静かに野鳥観察する参加者たち

記録者:河原隆治(もみのき森林公園協会)

魚のつかみ取り

■参加人数：62人
[プログラム状況]

山と言えば川、合言葉ではないが公園内の川を利用した「流れの遊び場」で「魚のつかみ取り」を13:00より開始しました。参加者は、森の恵みであり、また、吉和育ちのイワナを捕まえるために、この時期としては、ちょっと冷たい水の中へと小さい子どもさんを先頭にジャブジャブと入りました。参加していないギャラリーからは「早く捕まえにゃ!」「あそこにおるよ!」と威勢の良い掛け声。参加者は、皆童心にかえり夢中でイワナを捕まえ、バーベキューの材料にしたり、晩御飯のおかずにと自分で捕まえたイワナをそれぞれに家に持ち帰った様子でした。魚たちの住みやすい川を守るためにも森の手入れが必要であると感じたことでした。

記録者:梅田斉(財団法人もみのき森林公園協会)

森のネイチャーゲーム

■参加人数：22人
[プログラム状況]

家族単位で参加できるように時間を決めず随時ゲームを行い、スムーズに流れました。

ゲームは「昆虫探しゲーム」、「森の福笑い」、「色いくつ」、「森の色あわせ」、「かさね色」、「自然の紋」を用意していたが、小さな子ども達(2歳~8歳)に楽しんでもらえるように「昆虫探しゲーム」と「森の福笑い」を行いました。

特に「森の福笑い」は大人も子どもも時間を忘れて楽しんでもらえたようです。

最後に参加された家族は、子どもがネイチャーゲームに興味を持ってくれ準備していたゲーム全部を体験。ゲームの後、ペンダントを作りおみやげとして持って帰ってもらいました。



▲ネイチャーゲームを楽しむ参加者



▲私の顔にそっくりかな

記録者:森垣夫査子(広島県ネイチャーゲーム協会)

親子でピザを楽しむ会

■参加人数：39人

[プログラム状況]

ピザ作り体験のプログラムでは、今年新設した「ピザ窯」1基に加え、簡易ピザ窯4基もフル稼働させ、生まれて初めて粉を練るといってお子さんも張り切って、香ばしい焼きピザの香りをそこら中に振りまいていました。



▲親子で参加



▲ピザを焼く

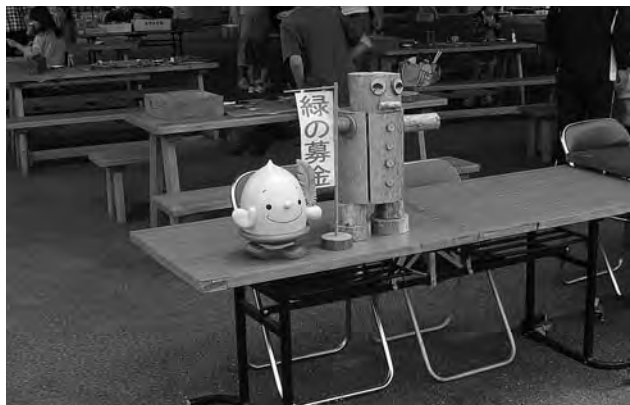
記録者：親子でピザを楽しむ会

森のクラフト教室

■参加人数：22人

[プログラム状況]

クラフト教室のコーナーでは、展示作品を見て参加申込する家族連れもあり、パパやママに聞きながらも独創的なアイデアを生み出してユニークな作品に作り上げる子どもたちが多く、目を輝かせて工作を楽しんでいました。



▲ドングリくんも参加



▲クラフトづくりコーナー

記録者：江川和禧(広島県森林インストラクター協議会)

広島市サテライト会場 広島市森林公園

全体

■参加人数：1,560人

[プログラム状況]

当日は、梅雨入り前にも拘わらず薄曇りで降雨の心配はほとんどなく9時に芝生広場において「もりメイト倶楽部 Hiroshima」の山田政延事務局長による「山の日」宣言を行い1日の盛況と無事故を祈って開始。開催したイベントはフォレストクラブ森守の協力を得て行なった「グリーンアドベンチャー」、市民参加の森林づくり実行委員会ともりメイト倶楽部Hiroshima運営の「親子でテーブルを作ろう」、広島県ネイチャーゲームの協力を得た「森のネイチャーゲーム」、東区緑のボランティアと東区役所区政振興課運営の「森林公園内の自然観察会」、もりメイト倶楽部Hiroshima運営の「森林公園内の山の手入れ」、広島県緑化センターと共同開催の「スタンプラリー」の6つで、各々のイベントとも当森林公園の特質を生かしたものとなりました。そして、スタッフの尽力と参加者の協力を得て16時のイベント終了まで、広島市森林公園での1日を楽しく有意義に過ごしていただきました。



▲山田政延事務局長による「山の日」宣言

記録者：桑田荘一郎(広島市森林公園)

グリーンアドベンチャー

■参加人数：100人

[プログラム状況]

本コースは「管理ボランティア フォレストクラブ森守」が中心となって一昨年末に整備新設されたもので森林公園内をクイズラリー方式でトレッキングできる常設コースです。

延長2,150m、標高差150mの林間コース内に18問を設置してあります。コース内は雑木林、人工林、モミジ植栽林、溪流園路、つり橋など変化に富んでおり、当公園の人気定番イベントのひとつになっています。問題内容については不定期ですが、現在バージョン3まで部分変更しています。

当日は定員いっぱいの100人の参加があり、参加者には当公園で製作された記念品と成績優秀者には賞品をプレゼントし、好評でした。



▲コースを歩く参加者



▲問題を見る参加者(問題は解けたかな?)

記録者：隅田誠(広島市森林公園)

親子でテーブルをつくろう

■参加人数：18人

[プログラム状況]

間伐材利用について理解を深めてもらうため、スギの間伐材を使ったテーブル作りを行いました。午前(9:00~12:00)、午後(12:30~15:00)の受付後、指導員(もりメイト倶楽部Hiroshima)から作り方や道具の使い方の説明を受け、作業に取りかかりました。

大半の家族は鋸や電動ドリルなどの工作道具に使い慣れていないため、指導員に手伝ってもらいながら、完成まで2時間位かかりましたが中には、普段工作を行っているということで手慣れたので、1時間位で完成させた家族がありました。

最後に完成したテーブルの脚や天板に「森からの贈り物「間伐材」」の焼印を押し、出来上がり、参加者は完成したテーブルの出来栄に感心し、また、親子で体験できたことに満足されている様子でした。



▲最初に板に線を引きます



▲完成が近づいたグループ

記録者:鳥田幸生(市民参加の森林づくり実行委員会)

森のネイチャーゲーム

■参加人数：39人

[プログラム状況]

天候にも恵まれ、家族連れや子どもが多く参加しました。1時間ごとに2回に分けて活動を行いました。活動の内容は、「音いくつ」「色いくつ」で導入を行い、五感を生かして自然に親しむことを実感していただきました。「木のセリフ」では、一本の木を色々な角度から観察し木の個性を感じながら吹き出しカードに書いたセリフを木に貼っていきました。「自然の紋」では、自然の中にある様々な形を見つけ参加者の感性を生かして自分の「自然の紋」を作っていました。子どもよりも大人のほうが真剣に取り組む姿が印象的でした。自然をじっくり観察し、親しみを持つことができたように思います。



▲森のネイチャーゲーム・「自然の紋」



▲森のネイチャーゲーム・「木のセリフ」

記録者:表田啓太郎(広島県ネイチャーゲーム協会)

森林公園内の自然観察会

■参加人数：18人

[プログラム状況]

広島市森林公園内を自然観察しながら散策しました。コースは、芝生広場—メルヘンの森—林道—ジャブジャブ川—ワンパク橋—芝生広場。

ケヤキ、エゴノキ、イヌザンショウ、ヤブニッケイなどの植物の様子や特徴を紹介しました。また、メタセコイアの解説では化石で発見された時の写真を、フジバカマの解説では蜜を吸うアサギマダラの写真を見られました。

参加者の年齢層は幼児からお年寄りまで幅広く、家族づれで参加する方が多かったようです。ソメイヨシノの実を試食したり、通称はがきの木と呼ばれるタラヨウの葉にクギを使って字を書いたり、双眼鏡で遠景を眺めたりするなど、さまざまな体験を通じて参加者に自然と親しんでもらえたと感じます。



▲葉っぱに字をかいてみよう



▲フジバカマの解説

記録者:田村梢(広島市東区役所まちづくり振興係)

スタンプラリー

■参加人数：138人

[プログラム状況]

広島県緑化センターと共催して、スタンプラリーを実施しました。広島市森林公園のコースは、芝生広場—メルヘンの森—ワンパク橋の3つのスタンプポイントを設置して、園内を楽しく散策してもらいました。参加者にはスタンプラリー賞として景品を配布しました。

森林公園から緑化センター間のシャトルバス運行効果によって、5組14人の方が両公園のスタンプラリーに参加されました。



▲参加受付風景



▲ラリーを楽しむ参加者

記録者:川原崇義(広島市森林公園)

森林公園内の山の手入れ

■参加人数：13人

[プログラム状況]

申し込みは、子ども2人、大人11人の計13人。10時集合で、ヘルメット・ノコを装着して作業について残す木と切る木の説明。併せてヘビ、蜂などへの対応も話しました。

準備運動後、指導者4人の紹介と4班に分かれて現場に移動し作業開始。気温や風などの状況から、水分補給や休憩を挟みながら林内の手入れをしました。始めは密集していた場所も徐々に青空が見えて爽やかさを感じる風が通るようになり、休憩の合図と共に一瞬止まった体もいつの間にか動いており、みんな活発でした。終盤には鹿による食害の木の説明をしました。

感想を聞くと最後まで活動した女の子が「楽しかった」との事。若者大人のグループも爽やかで活発な活動でした。



▲集まった家族連れなど



▲山の手入れに汗を流す

記録者:鎌田要(もりメイト倶楽部Hiroshima)

広島市サテライト会場 広島県緑化センター

全体 ■参加人数：約900人
[プログラム状況]

広島県緑化センター会場では、レストハウス前広場をメイン会場として、行事を行いました。

午前10時、正本実行委員長の開会挨拶に続き、地元福田老年会の児玉会長から祝辞をうけた後、可部南グリーンズ緑の少年団が「ひろしま山の日宣言」を行いました。

「山のグラウンドワーク」では、地元、福田老年会や緑の少年団、ふれあい湧のメンバーなど約60人が参加して、「集いの広場」周りの植栽と除伐を行いました。あわせて隣接する「桜の森」でも白木愛山会を主体に約20人で支障木の除伐を実施。「山の日」で2回目となる広島市森林公園間をつなぐスタンプラリーも好評でした。

メイン会場では、「ネイチャーゲーム」「クイズラリー」「丸太切り」「折紙飛行機飛ばし」などを行い、それぞれの参加者は顔に汗し、あるいは歓声をあげ、充分に楽しんでいました。(参加者 約200人)

午後からはメインステージで二組の友情出演があり、元広島交響管弦楽団バイオリニスト木島彰さんと稲葉望さんが出演された「みんなで合唱」ではステージと聴衆が一体となって盛り上がりました。続いて藤原歌劇団のオペラ歌手味香友子さんとウエンディズのメンバーによる合唱を聴くことができ、それぞれに山に関連した選曲で「山の日」に相応しい雰囲気を出して頂きました。

午後3時終了前の「飾花のプレゼント」では来園者方々の明るい笑顔が印象的で、心配された天気のおずれもなく、900人近い来園者で賑わった一日でした。

なお、「森林公園緑化センター」の無料送迎バス利用者は延べ61人でした。



▲山の手入れをする参加者



▲開会式の様子

記録者：実行委員会事務局



▲みんなで大合唱のステージ



▲丸太切りに挑む

森のネイチャーゲーム

■参加人数：50人
[プログラム状況]

レストハウスから多目的広場周辺10時から開会式。いつもの可部南グリーンズ緑の少年団のみんなによる山の日宣言が力強く響き、地元福田の町内会のみなさんもセンターの自然の素晴らしさをしみじみ話されていました。

それから山のグラウンドワーク・植樹作業・除伐体験等各種イベントを開始、快晴の中中足も良くネイチャーゲームにも家族単位で次々申し込みがありました。みんなイベント参加の申し込みをしているので、重ならないよう声かけしながら参加していただきました。スタッフは午前中、原田澄さん後で長野さんが参加して下さったので、受付(案内・誘導)とゲーム実施と少し余裕を持って出来たので助かりました。

メインは「自然がだいすきだいじがし」で実施したが、特に小さい子向けに、絵本「わたしのワンピース」をヒントに緑化センターの6月の「わたしのワンピース」を作ってもらいました。もっともって作ってもらいたいくらい素敵なワンピースができました。大人の方が子どもさんより、凝って熱中していたのが印象的でした。

あまり集中していないかに見えたお友達が一生懸命ワンピースを作っている姿には感動しました。そのご褒美に帰りがけ「おとしぶみ」が…お家で飼うと大事に緑の小さな巻物を持って帰られました。どんな虫か出てくるかな?

お土産のクラフトは「ガッツアイ」「自然災害ボランティアABC」の記事を紹介しながらみんなでつくりました。音楽を聞きに来られていた方や山登りに来てた方等、大人の方に人気があったようでした。



▲ネイチャーゲームの受付

記録者：住吉和子(広島県ネイチャーゲーム協会)

三原市サテライト会場 中央森林公園

全体 ■参加人数：1,000人
[プログラム状況]

6月6日、初夏の爽やかな青空の下、中央森林公園センター前広場で第9回ひろしま「山の日」県民の集いinみはらが開催されました。この日、メインの「里山の手入れ」と木の文化体験コーナーでは、「炭焼き体験コーナー」「チェーンソーアート実演ショー」「木工・グラフト体験コーナー」「丸太きり大会」「森のネイチャーゲーム」「魔法の風呂敷体験コーナー」「森のコンサート」「行政ボランティア紹介コーナー」「協賛グループの展示即売会」「ポニーと遊ぼう」など10種類のプログラムを実施しました。

当会場の特色は地元関係者をはじめ企業各社グループや緑の少年団、東広島市社会福祉協議会105人の家族連れの参加があったこと、「2010年ミスやっさ」2人の参加がありました。

開会式は小川副実行委員長が今日は里山との対話を十分楽しんでほしいとのあいさつで幕を開けました。祝辞は、三原市長五藤康之さんにいただき、来賓紹介は出席いただいた広島県 ▲主催者 来賓一同五藤三原市長祝辞 自然環境課長谷村恭彦さん他3人の方々を行いました。

山の日宣言はくわなし小みどりの少年団(5人)羽和泉緑の少年団(2人)が元気をすばらしい宣言でした。

メインの「里山の手入れ」には350人の参加がありました。参加者は6班に別れて森林ボランティアの指導で取り組みました。参加者はヘルメットを付けて、下草を刈ったり、除伐を行い、運び出し粉砕機でチップ化(堆肥)をしました。約1時間の作業でしたが0.5ヘクタールの里山が明るい林に再生しました。

午後からは、森のコンサートや各種プログラムの行事に一般参加者が加わり、お祭の雰囲気が最高に盛り上がり、多くの家族連れ(1,000人)で終日賑わいました。

山や森の大切さを理解し行動する人の輪を拡げていきかけがえの1日となりました。



▲2010年「ミスやっさ」激励参加

▲緑の少年団山の日宣言



▲安全祈願(どんぐりころころ)

里山の手入れ

■参加人数：300人
[プログラム状況]

「里山の手入れ」には350人の参加がありました。参加者は6班に別れて森林ボランティアの指導で取り組みました。参加者はヘルメットを付けて、下草を刈り、除伐を行い、運び出し、粉砕機でチップ化(堆肥)をしました。約1時間の作業でしたが0.5ヘクタールの里山が明るい林に再生しました。



▲ちゅーピー君も応援に参加した

▲班長さんの紹介(里山の手入れ)



▲下草刈り除伐作業



▲社会福祉協議会特別参加



▲切った木は運び出しチップ処理(堆肥)しました



作業後
明るい林となった



炭焼き体験コーナー

■参加人数：数名

[プログラム状況]

移動が可能な炭焼き窯を使用して窯から木炭を取り出し炭になる木を詰め込みました。

チェーンソーアート実演ショー

■参加人数：見学者多数

[プログラム状況]

チェーンソーアート実演コーナーではロックヒルダールの西田和弘さんに「かえる」のベンチを製作してもらいました。



▲チェーンソーア
かえるを彫刻した
ベンチが完成



木工・クラフト体験コーナー

■参加人数：親子40組参加

[プログラム状況]



親子でイスや
CDラックを
▼作りました

▲色どりの
クラフトを楽し
みました



丸太切り大会

■参加人数：約20人

[プログラム状況]

親子で直径15cmのヒノキの丸太を切る速さを争う競技に挑戦してもらいました。優勝者のタイムは1分13秒、とても早く切られました。子どもさんのタイムは約2分でした。勝利者賞は、3位まで図書券とした。多くの参加者があり大変好評をいただき無事終了しました。



▲親子で丸太切りに挑戦

森のネイチャーゲーム

■参加人数：約20人

[プログラム状況]

尾三ネイチャーゲームの会(3人)が運営し、3種類のゲームを体験してもらいました。

- カモフラージュ 自然の中に配置してある人工物を探す。
- 目かくしイモムシ 目隠しをして3~4人でイモムシを作り、リーダーが森の中を誘導する。足下の感覚や触れたものを手触り、太陽や風について感じてもらいました。
- 目かくしトレイル 目隠しで木と木の間に張ったロープを伝いゴールへ。

少人数でしたがじっくりと公園の自然を楽しむことができました。



▲スタッフ同



カモフラージュ
の様子

記録者:神原典政(尾三ネイチャーゲームの会)

魔法の風呂敷、ソーラークッカー体験コーナー

■参加人数：多数

[プログラム状況]

子どもさんから大人の方まで、基本の結び、一つ結びの他、簡単な風呂敷マイバック、ビン包み、帽子などご希望に合わせて体験していただきました。どんな形の物でも包めて楽しい風呂敷ワールドを楽しんでいただいたようです。

「ソーラークッカー」

野外の調理器具として人気が高まっているソーラークッカー。曇り空で十分に威力を発揮できませんでしたが、皆さん興味津々でご質問も多くいただきました。



▲三原ミスやっさも参加



▲ソーラークッカーでの料理を楽しむ

記録者:安藤志保(みどりのはらっぱの会)

森のコンサート

■参加人数：多数

[プログラム状況]

勇壮な備後君田太鼓の演奏やカラオケショー、ハワイアンダンスでお祭りを盛り上げました。



▲勇壮な君田太鼓



▲ハワイアンダンス



▲地元フォークダンスグループ



▲地元カラオケグループ

行政・ボランティア紹介コーナー

■参加人数：多数

[プログラム状況]

ひろしま森づくり県民税や各ボランティア団体などの活動展示を行いました。



▲協賛グループの展示会



▲「緑の募金」のPRコーナー



▲ふるさと産品出展状況



▲ご家族連れの参加でにぎわった

ポニーと遊ぼう

■参加人数：多数

[プログラム状況]

小さな子馬は多くの子どもたちが乗ったり、触れたり、大変好評でした。



▲ポニーに乗る参加者

ご協賛いただき誠にありがとうございました。

協賛者(アイウエオ順)

- 2口 賀茂地方森林組合、尾三地方森林組合
- 1口 (株)共立機械製作所、山陽建設(株)、(有)福島植物園、(株)堀内造園
- 三原卿心会、三原商工会議所、三原臨空商工会
- エコ電球寄贈 三原市
- 飲料水 山陽乳業(株)

記録者:櫻井充弘(実行委員会事務局長)

庄原市サテライト会場 板橋さとやま学びの森

全体

■参加人数：250人

[プログラム状況]

当日、午前中に自治振興区の運動会が行われ、若干閉会時間も遅れた関係から、午後12時45分からの開会となりました。本当の意味での、一般参加者は30人程度ではなかったのかと思われます。殆どは、地元の板橋東西自治会の住民でした。そのため、予定していたプログラムの参加希望も少なかったのですが、広島市内から参加されたご家族は、ポニーに乗ったり、自由に山を散策されて楽しんでいました。地元住民のみならず、里山での太鼓演奏や青空金管バンドの演奏などを楽しんでおられました。普段は山に入ることがありませんので、山の持つ魅力を大いに感じて頂いたのではないのでしょうか。



▲森の中でゆっくり



▲開会式

オープニング
「一心太鼓」



森のコンサート

■参加人数：多数

[プログラム状況]

板橋小学校 一心太鼓 生徒9名によるオープニング演奏を行いました。地元の生徒さんということで、熱心に聴いておられました。その後、青空金管バンドによる演奏が始まったのですが、滅多に聞くことのない金管楽器の音色に聞きほれました。予定の30分を大きく超え、50分程度演奏してくださいました。音響も素晴らしく、演奏者にも好評でした。次年度も学びの森で開催するようであれば、太鼓と金管バンドを実施したいと考えています。



▲青空金管バンドの演奏

ポニーに乗って遊ぼう

■参加人数：16人

[プログラム状況]

これも地元の人には馴染みのプログラムのために、主に市外の参加者が乗っておられました。ポニーだけでなく馬も来ていたので、なでたりして楽しんでおられました。少なかった原因の一つに、馬がいなくて、少し会場から離れていたことが考えられます。

森のクラフト教室

■参加人数：12人

[プログラム状況]

○講師:東登美夫(板橋さとやま友の会 会員)

予め用意していた材料に、筆ペンで顔を書いたり、模様を書き、更に穴をドリルで開けて紐を通してペンダントを作る。切り出しておいた丸太をノコで切り、コースターとしてお土産で持ち帰っていただきました。



クラフト教室の様子▶

自然観察会

■参加人数：10人

[プログラム状況]

○講師:西村清己(高原の家七塚 理事長)

参加者の内訳は、子どもが2人で、大人が8人でした。西村先生は何度か学びの森においでになっていますので、自分でコース設定をされ、およそ40分かけて丁寧に観察されました。意外だったのが、大人の参加者から「大変、勉強になった」という感想が聞かれたことです。西村先生の博識には脱帽です。



学びの森を観察する参加者▶

その他のプログラムである、「里山の手入れ」・「森で体験しよう」は、参加申し込みがなく、成立しませんでした。「食の祭典」は、お結び、トン汁、焼きソバ、天ぷらうどん、カキ氷、ビール・ジュースの販売をおこないましたが、全て売切れました。

記録者:はやし高正(板橋さとやま友の会)

全体 ■参加人数：250人
[プログラム状況]

第9回ひろしま「山の日」県民の集い福山市サテライト会場を6月6日(日)に、ふくやまふれ愛ランド(福山市赤坂町)にて開催しました。

福山市会場での開催も4回目を迎え来場者も定着し山に対する意識も多に盛り上がっています。「山に親しみ、山を楽しむ、山に学ぶ」をテーマとして若年から熟年まで幅広く呼びかけをし当日の参加者は250人余りになりました。山や森の大切さを理解し、行動する県民の輪を広げる目的は達成できたと確信しています。

開会式では、小田崇之運営委員長の開会宣言、内海康仁福山会場実行委員長による開会挨拶に続き、福山市経済環境局経済部長村松良彦様の祝辞と続きました。

オープニングセレモニーでは、福山市立女子短期大学保育科ボランティア「ショコラ」15人のメンバーによるダンスが披露され、会場は一際賑わいを見せていました。続いて各イベントがスタートしそれぞれがお目当ての会場に集合してプログラムを楽しみました。

○メイン事業である「山のグラウンドワーク」へは、150人余りの(午後より上級者向けを含め)参加者となり東部森林組合関係者、福山山岳会メンバーにより里山の草刈や樹木の手入れ作業の指導をしていただきました。また、D歩道周辺ではグリーンラインを愛する会によりチップパー機による実演もしていただきました。

○福山山岳会により、かしわ餅づくり体験コーナーを設けました。多くの参加者があり、自分でつくったかしわ餅を食べていました。なお、かしわの葉は山岳会の方が事前に持ち寄ったとのことで大変感謝しています。

○広島県ネイチャーゲーム協会により、里山をフィールドに自然体験ゲームを行ないました。小中学生等の参加等もあり興味深く観察をしていました。

○テント会場では、ワークショップ体験をゴミ5R推進本舗他の団体を中心となり環境関連商品販売(竹炭、木の実工作他)、マイ箸作り、きこり体験などを催し、会を盛り上げていただきました。

最後に、当日はすばらしい天気にも恵まれ、運営へご協力いただいた多くのスタッフ・団体関係者の方に支えられ無事閉会を迎えられたことに感謝いたします。

今後もこの行事を通じ、山や森の大切さを理解し行動する人の輪を広げていきたいと思っております。

記録者:赤木茂 (光和物産株式会社) ▲開会の挨拶をする内海実行委員長



▲開会式への参加者たち



▲ひろしま「山の日」宣言

里山の手入れ

■参加人数：150人
[プログラム状況]

午前中は、グループに別れ会場の南側の山林内の遊歩道沿い及び林内を広島県東部森林組合の指導者により録・手鋸で植栽木の周辺や枯木などを切り、林内の整理をしました。

子どもたちも、草を刈ったり枝を打ったり、新たにエドヒガン桜を植栽しました。参加者全員が熱心に作業をおこない、林内を整理することができました。

午後からは、機械(刈払機・チェーンソー)による実技講習会をおこない、取扱説明の後、参加者を分けて実際に機械を使用してもらい刈払機では草や灌木等を切ったり、チェーンソーでは枯松を倒し・玉切り・枝払い等の片付けまでの一連の作業工程を実習しました。

今年も、参加された人も多く限られた時間の中で全員が汗を流して活動していただきました。



▲手入れする参加者

▲チェーンソーの実技講習会

記録者:佐藤元則(福山市東部森林組合)

里山の手入れ及びかしわ餅づくり体験

■参加人数：多数
[プログラム状況]

当日は晴天に恵まれ、福山山岳会全員が充実した1日をご過ごすことができました。前年同様、メイン行事である「山のグラウンドワーク」へは、総勢24人が東部森林組合の作業補助として参加しました。

午前中は、一般参加者への植樹・伐採他の協力を積極的に行い、午後からは上級者向けへの山のグラウンドワークのプログラムに参加し、ほどよい汗を流しました。

また、昨年より取組んでいる「かしわ餅づくり体験コーナー」(参加者自身がかしわ餅を作ります)は、今年も好評で準備分はすべて完食となりました。メンバー全員の協力の下で盛會に終えることができました。全員に感謝です。来年もさらに参加人数を増やし、「山の日」を盛り上げることを全員で確認しました。



▲かしわ餅づくりを体験する子どもたち

年もさらに参加人数を増やし、「山の日」を盛り上げることを全員で確認しました。

記録者:小林征三 (福山山岳会)

森のネイチャーゲーム

■参加人数：62人
[プログラム状況]

活動の始めは生き物クイズです。ヒントを聞いていくうちにわかったら鼻に人差し指を当てます。すぐにわかった人はもちろん顔を悩ませていた人も和やかな雰囲気の中、生き物の生態について楽しく学びました。

次にグループに分かれて自然にまつわるものが書かれたカードを使ってビンゴゲームを楽しみました。芽、すべすべしたもの、甘い匂い、鳥の声など様々な感覚を使って色々な発見をしました。子どもたちの旺盛な好奇心や感性の豊かさには大人も顔負けです。

最後は聴診器で木の中から聞こえてくる音に耳を傾けました。ペアになってお互いの心臓の音を聴いてからそっと静かに聴診器を当ててみます。中から「サー」とか「ザー」という不思議な音が聞こえてきます。木の種類や同じ木でも場所によって聞こえる音が違う様です。みんな夢中になって色々な木の音を聴診器で聴きながら木の中で起きていることに思いを馳せながら次第に木と仲良くなっていきました。

五感を通して自然を感じる中、それまで眠っていた感覚が目覚めた事でたくさんの発見や気づきが生まれたようです。

記録者:小笠原康成(広島県ネイチャーゲーム協会)

チップパーシュレッダーの実演・展示

■参加人数：20人
[プログラム状況]

山のグラウンドワークで除伐された木の枝をチップパー機にかけてチップ化作業をしました。できたチップは堆肥などにして土壌改良に活用できるので、希望者へ配布しました。

展示場では、竹を使った工芸品や竹炭、竹炭の消臭作用を利用した小物などを紹介し、来場者に関心を持っていただきました。

▼チップパーシュレッダーで樹木を粉碎する



▲グリーンラインを愛する会の活動展示

記録者:前原江美子(NPO法人グリーンラインを愛する会)

ボランティア団体の展示・体験プログラム

■参加人数：多数
[プログラム状況]

展示などのテント2張りを使い、各団体の活動報告展示と森林破壊、地域の歴史、エコ漫画ギャラリー、食育、グリーンカーテンなどの啓発のための展示とマイ箸作りや森の木の葉っぱ、枝を使った工作のワークショップをしました。子どもたちが思い思いに工作を楽しんでいました。

出展団体:ごみ5R推進本舗、エコローズ企画、「つながる。」、おくぶく



▲マイ箸作りを楽しむ参加者

手ノコで丸太切りに挑戦

記録者:落合真弓(ゴミ5R推進本舗)

手話入りダンス

■参加人数：多数

【プログラム状況】

今年で3回目の参加となる福山私立大学女子短期大学の手話入りダンス「ここに咲く花」は、福山会場開幕の準備運動として定着してきているようで、冒頭から体を動かしてくださる参加者が多いのに驚きました。

福山ばら祭りのテーマソングであるこの曲に本学保育科の学生が中心となって手話入りの振り付けを考えたこのダンスは、全身の各部を動かすユニバーサルデザイン体操となっています。この後行なわれる様々な「山の日」行事に、元気よく、安全に、参加していただけるようポイントを解説しながらの踊りには、子どもから大人まで多くの方々が参加してください、体のウォーミングアップができたと同時に、山のまぶしい緑の中、たくさんの笑顔の花が会場全体に咲きそりました。

参加した学生たちは、「ありがとう」「楽しかったよ」という参加者の温かいお声に何より励まされたようです。「絶対に来年も参加したい」と決意表明するように、今回の体験が強く心に刻まれた一日となりました。山を愛する方々のあたたかい心に触れることができ、学内の授業だけでは学ぶことのできない生きた勉強となりました。

この催しに毎年参加させていただけることに感謝し、来年度はさらに盛り上げていけるよう学生ともども精進したいと思っています。



▲手話入りダンス「ここに咲く花」



▲ダンスチームのメンバー

記録者：大庭三枝（福山市立女子短期大学保育科 准教授）

福山グリーンリーダーズスクール 「山の日」参加記
寄稿：小田崇之（福山青年会議所 夢溢れる青少年育成委員会）

■参加人数

（社）福山青年会議所 夢溢れる青少年育成委員会 合計7人
福山グリーンリーダーズスクール 合計15人

■オープニングセレモニーへの参加

オープニングを飾る山の日宣言をグリーンリーダーズスクール 岡本祐太君が元気な声で読み上げました。また、福山市立女子短期大学ボランティア「ショコラ」の皆様によるダンスでは、若干、恥ずかしそうな素振りを見せながらも、スクールの子どもたちだけでなく我々青年会議所メンバーも一緒に参加し、盛り上がりました。

■各プログラムへの参加

かしわ餅づくり、里山の手入れ、森のネイチャーゲームに全員で参加しました。いずれも子どもたちにとっては初めての体験ばかりで、男女問わず全員が興味津々取り組みました。植樹、のこぎり体験では、「次は僕」「その次は私」のように何度も何度もやりたがる子ども達が多く、時間が足りなくなるほど非常に好評でした。また、ネイチャーゲームでは答えを見つけ出すため夢中になり、そしてチームワークが要求される内容もありましたが、いとも簡単に意思疎通できてしまう子どもたちに頭が下がりました。

■所感

子どもたちを連れての参加のため、のこぎり等を扱う場面では安全面に気を使いましたが、無邪気に、そして真剣に色々なプログラムに取り組む子どもたちの表情を見て我々青年会議所メンバーもやりがいを感じました。当スクールでは「学校や家庭で体験できない活動」を基本方針として、子どもたちと共に色々な体験活動を実践しておりますが、改めて自然との触れ合いの重要性を感じました。今後も我々青年会議所として健全な青少年育成活動を実践する上で、このような集いの場を大事にしていきたいと思っています。



▲記念植樹を行なう



▲福山グリーンリーダーズスクール、メンバー

三次市サテライト会場 清高の丘

■参加人数：350人

【プログラム状況】

ひろしま「山の日」県民の集い三次市サテライト会場は、今年も「清高（せいたか）の丘」を会場に開催しました。

午前中は、これまで継続して手入れを行ってきた清高の丘内の整備を行いました。子どもを含む約40人の参加者が、指導員のサポートを受けながら、竹林の伐採や、ヒノキの枝打ち、チップャー機による竹のチップ化、薪割り機を使った薪づくり、伐採した竹での生垣づくりなど行いました。蒸し暑い時期でしたが、手入れ後はさわやかな汗を流した爽快感の中、おいしいお昼ご飯を食べることができました。

また、午前午後を通して、会場内では「森で遊ぼう」と題し、森の散策やそこで見つけた山野草で天ぷらを作ったり、「山の日」限定のツリークライミングやターザンロープのコーナー、自然や生き物の不思議さ、おもしろさを五感で体験できるネイチャーゲーム、恒例のカブトムシの幼虫探し、玉ねぎの皮で染め物づくりなど、森の中での体験を親子で楽しんでもらうことができました。

そのほか、自分で作ってその場で焼きたてを食べられるハープピザや地元の方手作りの特製カレーを森の中で美味しく食べるすることができました。

森の手入れが進み、清高の丘も年を重ねるごとに、やわらかい日差しが入る居心地のいい場所となってきました。今年の「山の日」も、ゆっくりと流れる時間の中で大人も子どもも自然とふれ合うことができ、心を満腹にする1日過ごすことができました。



▲開会式



▲森の手入れ



▲「山の日」限定、ターザンロープ



▲森の散策



▲森の手作りピザ



▼玉葱の皮で染物

▲木のおもちゃづくり



記録者：高岡尚正（三次市 農政課）

呉市サテライト会場 グリーンヒル郷原

全体 ■参加人数：158人
[プログラム状況]

オープニングセレモニーが終了し、いよいよ記念植樹のプログラムに入りました。まず、植樹作業について、現物を見せながら専門家が木・肥料について解説、植樹後角材に自分の名前やメッセージをマジックで書き入れるとよいの説明がありました。5班に分かれて林道沿いの植樹予定地へバスで移動しました。

現地では各班の指導者から、鍬・スコップの使用方法、肥料の混ぜ方の説明を受けて、穴掘りからスタート。(敷地には石が多く掘りにくいため事前に機械で掘り返し埋め戻しておきました)石が多く予想以上に時間がかかりましたが、正午過ぎ、植樹地に「第9回ひろしま「山の日」県民の集い 郷原～野呂山線開通記念」の標識を打ち込んで、無事終了しました。午後、地元郷原の方が水やりに来られました。

参加者から「慣れない作業で汗をかいたが、心地よい汗だった。成長が楽しみ」との声も聞かれました。植樹後の樹には、結婚記念の氏名や日付、「早く大きくなってね」「成長を楽しみにしている」など垂木にメッセージが書かれています。

○記念植樹の概要

サトザクラ25本、マンサク38本、ヒラドツツジ306本、ヒベリカム・ヒデアコート340本 合計719本

○オープニングセレモニーの概要

- ・開会挨拶 堀川保幸呉市会場実行委員長
- ・祝辞 官政利(広島県議会議員)
- ・山の日宣言 佐藤一教(バブコック日立エコークラブ会長)
- ・安全祈願 宮岡泰久(サポート・トレッキング・グループ会長)



▲林道入り口にて植樹する参加者



▲林道入り口、植樹後



▲林道広場、植樹後



▲開会の挨拶をする堀川実行委員長

記録者:宮岡泰久(サポート・トレッキング・グループ 会長)

実行委員会(全体)

■アドバイザー

森本 竹一 元・吉和村村長
中越 信和 広島大学大学院 国際協力研究科 教授
植田 俊彦 広島県農林水産局 森林保全課 課長
谷村 恭佐 広島県環境県民局 自然環境課長
池田 博行 (社)広島県みどり推進機構 事務局長
川本 一之 中国新聞社 代表取締役社長
安東 善博 (株)中国放送 代表取締役社長

■実行委員長

林 春樹 (株)タカキペーカリー 代表取締役 社長執行役員

■副委員長

潮川 千代子 ひろしま緑づくりインフォメーションセンター 代表
伊藤 利彦 愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会 幹事
内海 康仁 光和物産(株) 代表取締役社長
京才 昭 広島県山岳連盟 会長
前垣 壽男 西条・山と水の環境機構 理事
箕田 英紀 三次市酒造地区自治連合会 会長
福島 偉人 (株)有斐園 代表取締役社長
八谷 文策 NOP法人森のバイオマス研究会 監事
堀川 保幸 中国木材(株) 代表取締役社長
杉村 功 (社)日本山岳会広島支部 支部長

■委員

赤木 茂 光和物産(株) 取締役総務部長
秋山 浩三 広島県ネイチャーゲーム協会 事務局長
石井 英太郎 西条・山と水の環境機構 運営委員
岡本 一彦 三次市産業部 農政課 課長
音 陽 (社)日本山岳会広島支部 自然環境委員会副委員長
井上 年光 阿品の森サポータークラブ
上本 真敏 生協ひろしま
江川 和禮 広島県森林インストラクター連絡協議会 事務局長
大西 弘 広島県森林インストラクター連絡協議会 会長
小笠原 六郎 板橋さとやま友の会
小野 寛 エコロジー研究会ひろしま
鎌田 博 広島市森林公園((株)第一ビルサービス 森林公園 園長)
櫻井 充弘 中央森林公園協会常務理事 ひろしま人と樹の会 事務局長
佐渡 宏治 北広島町役場 産業課 課長
竹田 幸雄 (財)オイスカ広島支局 事務局長
玉理 正博 中国木材(株) 人事・総務部 副部長
縄 敏行 福山青年会議所
西本 隆幸 アンデルセン芸北100年農場 農場長
野島 信隆 広島県山岳連盟 副会長 普及部 部長
野本 利夫 NOP法人ゆあーず「食」未来研究所 理事長
福永 やす子 広島県山岳連盟 普及部
正本 良忠 広島県緑化センター 管理責任者
宮岡 泰久 サポート・トレッキング・グループ 会長
山田 雅昭 広島県山岳連盟 理事長
■監事

梅田 斉 (財)もみのき森林公園協会 事務局長

■事務局(委員兼任)

総合調整 兼森志郎 (社)日本山岳会広島支部 総務委員長
総合調整 畠崎辰豊 西条・山と水の環境機構

実行委員会(メイン・サテライト会場)

■北広島町メイン会場[八幡高原]

■実行委員長

林 春樹 (株)タカキペーカリー 代表取締役 社長執行役員

■副委員長

近藤 敏史 西中国山地自然史研究会 会長
■事務局 佐渡 宏治 北広島町役場 産業課長
■監事 川内 信忠 芸北地域振興協議会 会長

■東広島市サテライト会場[憩いの森公園]

■実行委員長 島 靖英 西条・山と水の環境機構 理事
■副委員長 高田 和彦 シャープグリーンクラブ東広島
■運営委員長 佐藤 高晴 広島大学総合科学研究科 准教授
■運営副委員長 近藤 俊明 広島大学大学院国際協力研究科 助教
■事務局長 船本 昌義 西条・山と水の環境機構 事務局

■廿日市サテライト会場[もみのき森林公園]

■実行委員長 平本 勝吉 (財)もみのき森林公園協会 理事長
■副委員長 大久保 正人 阿品の森サポータークラブ 会長
■運営委員長 大西 弘 広島県森林インストラクター連絡協議会 会長
■事務局長 梅田 斉 (財)もみのき森林公園協会 事務局長

■広島市サテライト会場[広島市森林公園]

■実行委員長 齋田 博 広島市森林公園((株)第一ビルサービス 森林公園 園長)
■副委員長 富士澤 隆 広島市森林公園((株)第一ビルサービス 森林公園 副園長)
■運営委員長 見勢井 誠 もりめイト倶楽部Hiroshima 会長
■副運営委員長 桑原 清二 フォレストクラブ森守 会長
■事務局長 桑田 荘一郎 広島市森林公園

■広島市サテライト会場[広島県緑化センター]

■実行委員長 正本 良忠 広島県緑化センター管理責任者
■副委員長 山根 道廣
■運営委員長 廣瀬 健 広島県グリーンサポート連絡会 会長
■副運営委員長 前山 敏彦 ふれあい湖

■三原市サテライト会場[中央森林公園]

■実行委員長 福島 偉人 (株)有斐園 代表取締役社長
■副委員長 渡邊 文雄 三原市経済部 部長
小川 健太郎 尾三地方森林組合 代表理事相合長
■運営委員長 片山 忠行 NPO法人森のおさるさん
■副運営委員長 川口 洋海 三原市経済部 次長
■事務局 岡田 利文 三原市シルバー人材センター 本郷支所長
櫻井 充弘 (財)中央森林公園協会 常務理事

■庄原市サテライト会場[板橋さとやま学びの森]

■実行委員長 八谷 文策 NPO法人森のバイオマス研究会 監事
■運営委員長 小笠原 六郎 板橋さとやま友の会
■事務局 林 高正 板橋さとやま友の会

実行委員・協力者・団体等

■福山市サテライト会場【ふくやまふれ愛ランド】

- 実行委員長
内海 康仁 光和物産(株) 代表取締役社長
- 副委員長
山内 充人 福山山岳会 会長
- 運営委員長
小田 崇之 福山青年会義所 青少年育成委員長
- 事務局長
赤木 茂 光和物産(株) 取締役総務部長

■三次市サテライト会場【清高の丘】

- 実行委員長
箕田 英紀 三次市酒屋地区自治連合会 会長
- 運営委員長
貞広 和則 三次地方森林組合
- 事務局長
岡本一彦 三次市農政課 課長

■呉市サテライト会場【グリーンヒル郷原】

- 実行委員長
堀川 保幸 中国木材(株) 代表取締役社長
- 副委員長
佐藤 一教 バブコック日立エコクラブ 代表
- 運営委員長
宮岡 泰久 サポート・トレッキング・グループ 会長
- 事務局長
玉理 正博 中国木材(株) 人事・総務部 副部長

協力者・団体等

■北広島町メイン会場【八幡高原】

- 登山道整備・清掃／広島県山岳連盟、日本山岳会広島支部
- 前夜祭／八幡地区振興会、アンデルセングループ、広島県山岳連盟、日本山岳会広島支部、オ乙金曜会等
- オープニングセレモニー／八幡小学校、八幡子ども園、広島県みどり推進機構、広島大学留学生グループ等
- 山の手入れ／太田川森林組合、みどり情報局一広島、広島県森林インストラクター芸北地区グループ、オ乙金曜会、ひろしま人と樹の会、西条・山と水の環境機構等
- 登山教室／日本山岳会広島支部
- 霧ヶ谷湿原観察会／芸北トレッキングサポートの会
- 森のネイチャーゲーム／広島県ネイチャーゲーム協会
- ヤマネの樺む森と湿原の観察会／芸北自然保護レンジャー
- 展示／太田川森林組合、大和重工、神沢精工、広島マツダ、芸北聖湖畔リゾート、ひろしま「山の日」県民の集い
- 司会／山原玲子
- 運営／北広島町

■東広島市サテライト会場【憩いの森公園】

- 山のグラウンドワーク&木質バイオマスの利活用紹介／西条・山と水の環境機構、西条酒造協会、東広島酒米栽培協議会、JA広島中央、(財)東光会、賀茂地方森林組合、憩いの森ハーブ研究会、広島大学木質ベレットプロジェクト、新興工機、栗尾衛生社
- ベレットストーブの実演展示等／ヤマノイ(株)
- 竹・木質資源の有効利用「エコプランター&竹チップ堆肥」展示／フジ・エコテック、森の応援隊
- 森のネイチャーゲーム／広島県ネイチャーゲーム協会(呉・東広島の会)
- 山の手入れ道具の販売&丸太切り体験／賀茂地方森林組合
- 農業高校の活動紹介(展示)／西条農業高校
- 運営／広島大学「かっぱのおうち」、西条・山と水の環境機構

■廿日市市サテライト会場【もみのき森林公園】

- 湿原の保全と木道の設置／阿品の森サポータークラブ、広島県森林インストラクター連絡協議会
- 親子でピザを楽しむ会／広島県森林インストラクター連絡協議会
- 森のクラブ教室／広島県森林インストラクター連絡協議会
- 自然観察指導員と歩くもみのき森林公園／もみのき森林公園協会
- 野鳥観察会／日本野鳥の会
- 魚のつかみ取り／もみのき森林公園協会
- 森のネイチャーゲーム／広島県ネイチャーゲーム協会

■広島市サテライト会場【広島市森林公園】

- グリーンアドベンチャー／広島市森林公園
- 親子でテーブルをつくろう／市民参加の森林づくり実行委員会、もりメイト倶楽部Hiroshima
- ネイチャーゲーム／広島県ネイチャーゲーム協会
- 自然観察会／東区みどりのボランティアの会、広島市東区役所まちづくり振興係
- 山の手入れ／もりメイト倶楽部Hiroshima
- スタンプラリー／広島市森林公園

■広島市サテライト会場【広島県緑化センター】

- 植樹祭／広島県山岳連盟、福田老年会
- 山の手入れ／可部南グリーンズ緑の少年団、ふれあい湧
- クイズラリー／ふれあい湧、広島県緑化センター
- 森の演奏会／福田同好会
- 紙ヒコーキ大会／広島県緑化センター、ふれあい湧
- 丸太切でペンダントをつくろう／広島県緑化センター、ふれあい湧
- 森のネイチャーゲーム／広島県ネイチャーゲーム協会

■三原市サテライト会場【中央森林公園】

- 里山の手入れ／ひろしま人と樹の会、NPO法人森のお猿さん、帝人(株)、シャープ(株)、(株)ユアーズ、(株)ホンダカーズ広島、三景園友の会、尾三地方森林組合、広島県自転車競技連盟等
- 木の文化体験／三原市シルバー人材センター、広島県森林インストラクター連絡協議会、みどりのはらっぱの会等
- 森のネイチャーゲーム／広島県ネイチャーゲーム協会
- ポニーと遊ぼう／平田道明

■庄原市サテライト会場【板橋さとやま学びの森】

- 森のコンサート／青空金管合唱団、板橋小学校児童
- ポニーに乗って遊ぼう／庄原ホースヒル(岡動物病院)
- 森のクラブ教室／板橋さとやま友の会
- 自然観察会／板橋さとやま友の会
- 庄原／食の祭典(テント村) 板橋東西自治会

■福山市サテライト会場【ふくやまふれ愛ランド】

- 里山の手入れ／広島県東部森林組合、福山山岳会
- かしわ餅づくり体験／福山山岳会
- ネイチャーゲーム／広島県ネイチャーゲーム協会
- チッパー機の実演／NOP法人グリーンラインを愛する会
- 活動展示／ごみ5R推進本舗、エコローズ企画、「つながる。」、ぶくぶく、NOP法人グリーンラインを愛する会
- 手話入りダンス／福山市立女子短期大学保育科

■三次市サテライト会場【清高の丘】

- みんなで森の手入れ／実行委員会
- 森で遊ぼう／実行委員会
- 森のネイチャーゲーム／広島県ネイチャーゲーム協会

■呉市サテライト会場【グリーンヒル郷原】

- 野呂山林道開通記念植樹／中国木材(株)、サポート・トレッキング・グループ、バブコック日立エコクラブ等

注) 以上、事務局で確認している団体等を記述いたしました。今年もたくさんの方々に協力していただき行事を行なうことができました。ありがとうございました。

第9回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

- 発行日 2010年9月30日
- 発行 ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
- 編集 実行委員会事務局
- 事務局 〒730-0041 広島県広島市中区小町2-28-703
担当: 畝崎
TEL (082) 248-3567 FAX (082) 248-3586
e-mail: info@yamanohi.com